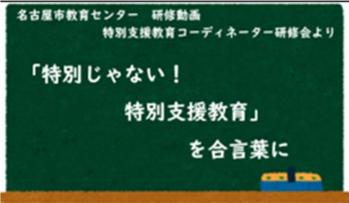
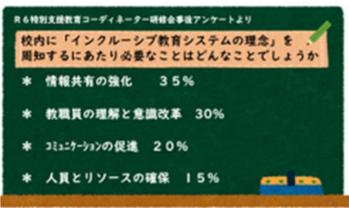
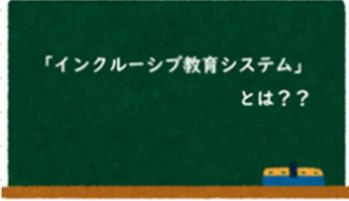
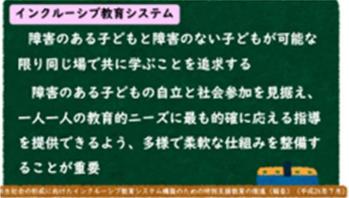
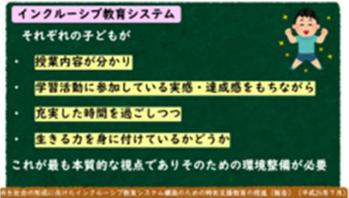
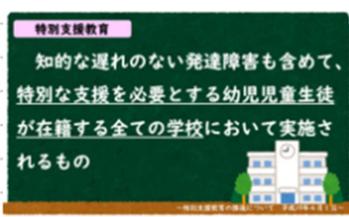
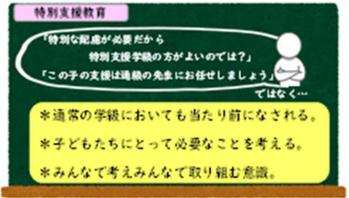
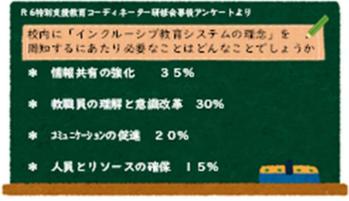
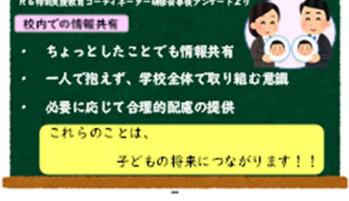
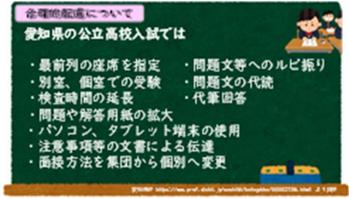
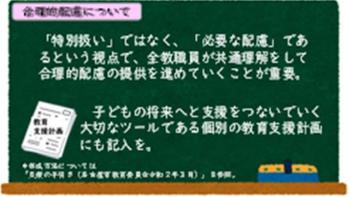
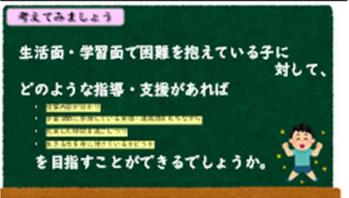
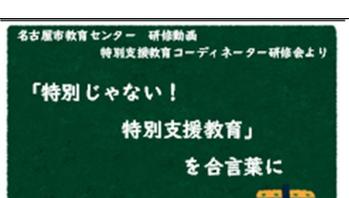


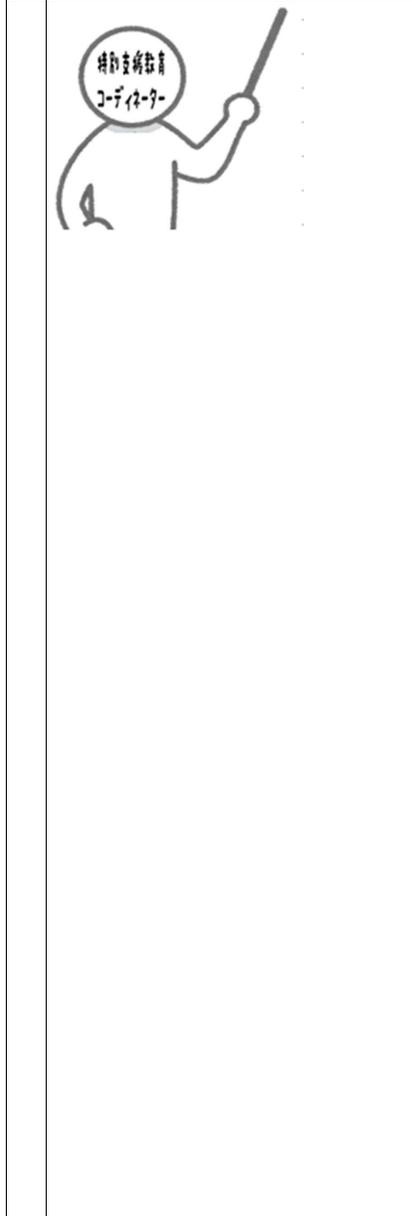
<p>本動画を使って、特別支援教育コーディネーター研修会の報告を行ってみましょう。</p> <p>20～30分のできる報告会のナレーション例(本紙)を参考にし、ぜひ、各学校の実態に合わせてアレンジして使ってみてください。</p>	
<p>動画のみ(6分1秒)</p> <p>用意するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイマー</li> <li>・特別支援教育コーディネーター研修の資料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 現職教育などで、特別支援教育コーディネーターが研修を実施する場合</li> <li>* 特別支援教育コーディネーターの指導者用タブレット画面をスクリーン等に投影して実施。</li> </ul>
	<p>****</p> <p>「今から、特別支援教育コーディネーター研修会の報告をします。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだ内容を伝える</li> <li>・ これは知っておいてほしいという内容を伝える (5～10分程度)</li> </ul> <p>「今年度の研修を受けて、教育センターから特別支援教育についての動画コンテンツができました。今から、その動画を基に、先生方にも特別じゃない特別支援教育について考えていただけたらと思います。」</p> <p>「動画の途中で、皆さんに考えていただいたり、考えたことを近くの方に伝えていただく時間を取らせていただいたりします。是非積極的にお話をしてください。」</p> <p>動画再生 ▶</p> <p>****</p>
<p>スライド1</p> 	<p>【動画ナレ】</p> <p>本動画は、令和6年度に実施した、特別支援教育コーディネーター研修を基に作成しています。</p> <p>「特別じゃない！特別支援教育」を合い言葉に というテーマでお話します。</p> <p>このテーマについては、動画の中で、皆さんにも考えていただけたらと思います。</p>

スライド2		<p>【動画ナレ】</p> <p>さて、特別支援教育コーディネーター研修会の事後アンケートで、受講者のみなさんに、「校内に、インクルーシブ教育システムの理念を周知するにあたり、必要なことはどんなことでしょうか」という質問をさせていただきました。</p> <p>その回答では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有の強化、</li> <li>・教職員の理解と意識改革、</li> <li>・コミュニケーションの促進、</li> <li>・人員とリソースの確保</li> </ul> <p>といった声がたくさん聞かれました。</p>
スライド3	 	<p>【動画ナレ】</p> <p>そもそも、インクルーシブ教育システムって何でしょうか？</p> <p>動画をご覧になっている皆さんは、「インクルーシブ教育システム」とはどんなことだと思いますか。いったん動画を止めて、お考え下さい。小さな声で呟いていただいても大丈夫です！！</p> <p>****</p> <p>動画を止める。</p> <p>「では、『インクルーシブ教育システム』って何？ということについて、「こうじゃないかな？」「正直分からないよ。」など今思っていることをぜひ隣の人に伝えてみてください。どうぞ。」</p> <p>タイマー：2分</p> <p>「みなさん、いかがでしょうか。インクルーシブ教育システムについて、今思っていることを伝えていただけたことと思います。では、実際にインクルーシブ教育システムとは何なのか、動画を続けていきたいと思います。」</p> <p>動画再生 ▶</p> <p>****</p>
スライド4		<p>【動画ナレ】</p> <p>平成24年の文科省報告では、障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り同じ場でともに学ぶことを追求すること、教育的ニーズに最も的確にこたえる指導を提供できるよう多様で柔軟な仕組みを整備することが重要</p>

ス ラ イ ド 5		<p>【動画ナレ】 可能な限りともに学ぶ中で、それぞれの子どもが</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容が分かり</li> <li>・学習活動に参加している実感・達成感をもちながら</li> <li>・充実した時間を過ごしつつ</li> <li>・生きる力を身に付けているかどうか</li> </ul> <p>ということが、最も本質的な視点でありそのための環境整備が必要とされています。</p>
ス ラ イ ド 6		<p>【動画ナレ】 「では、もう一つ考えていただきたいと思います。本動画のタイトルにもなっている「特別じゃない特別支援教育」とは、皆さんはどんなものだと考えますか？動画をいったん止めて、考えてみてください。」</p> <p>**** 動画を止める。 「では、『特別じゃない！特別支援教育』ということばを聞き、どんなことを想像しますか？どんなことを言っているのだと思いますか。今頭に浮かんでいることを、是非隣の人に伝えてください。」</p> <p>タイマー：2分</p> <p>「みなさん、いかがでしょうか。それぞれが思う『特別じゃない！特別支援教育』について話していただけたことと思います。実際の所、特別支援教育ってどんなことを指しているのでしょうか。誰が行うものなのでしょうか。では、動画を続けていきたいと思います。」</p> <p>動画再生 ▶ ****</p>
ス ラ イ ド 7		<p>【動画ナレ】 特別支援教育とは、「特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるもの」とされています。つまり、本動画を視聴している皆さん全員が、特別支援教育の担い手ということになりますね。</p>

ス ラ イ ド 8		<p>【動画ナレ】 ですので、特別な配慮が必要だから特別支援がよいのでは、や、この子の支援は通常の先生にお任せしようといった考えではなく、通常の学級においても特別支援教育は当たり前になされるものであり、先生ひとりひとりが子どもたちにとって必要なことを考え適切に提供することが期待されています。もちろん、一人で進めていく必要はありません。校内で情報共有をしながら、みんなで考え、みんなで取り組む意識が大切です。</p>
ス ラ イ ド 9		<p>【動画ナレ】 冒頭にお示しした、研修会事後アンケートでも、必要なことの回答で一番多かったことが、情報共有の強化でした。そして、そのために必要なこととして、次のような意見があげられました。</p>
ス ラ イ ド 10		<p>【動画ナレ】 雑談レベルでOK。普段から情報共有をする。全体で情報を共有しながら、合理的配慮について考える機会をもつ。日頃から、通常の学級、特別支援学級隔たりなく話す。情報共有で特別支援教育が難しいことではないことを感じられるようにする。</p>
ス ラ イ ド 11		<p>【動画ナレ】 情報共有についての意見をまとめたところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっとしたことでも情報共有</li> <li>・一人で抱え込まず、学校全体で取り組む意識</li> <li>・必要に応じて合理的配慮の提供を行う</li> </ul> <p>という視点があげられました。これらは、子どもの将来につながっていくとても大切な視点です。</p>

ス ラ イ ド 12	 <p>合理的配慮について 愛知県の公立高校入試では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最前列の座席を指定</li> <li>・別室、個室での受験</li> <li>・検査時間の延長</li> <li>・問題や解答用紙の拡大</li> <li>・パソコン、タブレット端末の使用</li> <li>・注意事項等の文書による伝達</li> <li>・面接方法を集団から個別へ変更</li> <li>・問題文等へのルビ振り</li> <li>・問題文の代読</li> <li>・代筆回答</li> </ul>	<p>【動画ナレ】 将来の視点として、高校入試や大学入試もその一つになるかと思えます。 例えば、愛知県立の高校入試では、すでにこのような合理的配慮が提供されたという事例があります。 そして、これらの配慮を受けるためには、小中高等学校でも配慮が行われてきているということがとても大切になります。</p>
ス ラ イ ド 13	 <p>合理的配慮について</p> <p>「特別扱い」ではなく、「必要な配慮」であるという視点で、全教職員が共通理解をして合理的配慮の提供を進めていくことが重要。</p> <p>子どもの将来へと支援をつないでいく大切なツールである個別の教育支援計画にも記入を。</p>	<p>【動画ナレ】 合理的配慮を検討する際の視点として、「特別扱い」ではなく、「必要な配慮である」という視点を持ち、全教職員が共通理解をして進めていくことが重要です。 また、子どもの将来へと支援をつないでいく大切なツールである個別の教育支援計画にも配慮の内容を記入し活用していくようにしましょう。</p>
ス ラ イ ド 14	 <p>考えてみましょう</p> <p>生活面・学習面で困難を抱えている子に対して、どのような指導・支援があれば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容が分かり</li> <li>・学習活動に参加している実感・達成感をもちながら</li> <li>・充実した時間を過ごしつつ</li> <li>・生きる力を身に付けていけるでしょうか。</li> </ul>	<p>【動画ナレ】 さて、改めて、皆さんの学級・学年・学校には様々な子どもがいると思えます。 生活面・学習面で困難を抱えている子もいます。 では、どのような指導・支援があれば、子どもが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容が分かり</li> <li>・学習活動に参加している実感・達成感をもちながら</li> <li>・充実した時間を過ごしつつ</li> <li>・生きる力を身に付けていけるでしょうか。</li> </ul> <p>この動画が終わったら、ぜひ考えてみてください。</p>
ス ラ イ ド 15	 <p>名古屋市教育センター 研修動画 特別支援教育コーディネーター研修会より</p> <p>「特別じゃない！ 特別支援教育」 を合言葉に</p>	<p>【動画ナレ】 最後になりましたが、先生たち一人一人が特別支援教育の担い手という意識を持ち、教育的ニーズのある子どもの実態にあった指導支援をぜひ行っていただきたいと思います。 これで、本動画を終わります。</p>

	<p>***** 「では、最後に、リフレクションをしたいと思います。 動画の最後にもありましたが、先生方が担任・担当している学級学年においても、生活面や学習面で困難を抱えている子がいると思えます。すでに、特別な配慮をしていたり、個別に支援をしていたりする子もいると思えます。その子についてでも結構ですし、他の子どもについても大丈夫です。」</p> <p>「その子が、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容が分かり</li> <li>・学習活動に参加している実感・達成感をもちながら</li> <li>・充実した時間を過ごしつつ</li> <li>・生きる力を身に付けていけるために、先生ならどんな支援・配慮を行いますか。」</li> </ul> <p>「1分ほど考えていただき、その後の伝え合いタイムでは、隣の方にその内容を伝えていただきたいと思えます。伝え合いタイムは4分時間を取ります。ではさっそく、考えてみてください。」</p> <p>タイマー：1分</p> <p>「では今から伝え合いタイムです。考えたことを互いに伝え合ってみましょう。」</p> <p>タイマー：4分</p> <p>「時間になりました。いろんな支援・配慮などが出たのではないのでしょうか。また、日頃の取り組みを見直すきっかけになれば幸いです。」</p> <p>「さて、今日は、特別支援教育コーディネーター研修会での学びを伝えさせていただくとともに、『特別じゃない！特別支援教育』について考えていただきました。」今後も本校の特別支援教育が更に推進されるよう、情報共有を大切にしながら取り組んで行きましょう。」</p> <p>「これで、特別支援教育コーディネーター研修会報告会を終わります。」 *****</p>
---	--

名古屋市教育センター 研修動画  
特別支援教育コーディネーター研修会より

「特別じゃない！  
特別支援教育」  
を合言葉に

R6 特別支援教育コーディネーター研修会事後アンケートより

校内に「インクルーシブ教育システムの理念」を  
周知するにあたり必要なことはどんなことでしょうか

- \* 情報共有の強化 35%
- \* 教職員の理解と意識改革 30%
- \* コミュニケーションの促進 20%
- \* 人員とリソースの確保 15%

「インクルーシブ教育システム」  
とは??

### インクルーシブ教育システム

障害のある子どもと障害のない子どもが可能な  
限り同じ場で共に学ぶことを追求する

障害のある子どもの自立と社会参加を見据え、  
一人一人の教育的ニーズに最も的確に答える指導  
を提供できるよう、多様で柔軟な仕組みを整備す  
ることが重要

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）（平成24年7月）

### インクルーシブ教育システム

それぞれの子どもが

- ・ 授業内容が分かり
- ・ 学習活動に参加している実感・達成感をもちながら
- ・ 充実した時間を過ごしつつ
- ・ 生きる力を身に付けているかどうか

これが最も本質的な視点でありそのための環境整備が必要

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）（平成24年7月）

皆さんが考える

「特別じゃない！特別支援教育」  
とは??

## 特別支援教育

知的な遅れのない発達障害も含めて、  
特別な支援を必要とする幼児児童生徒  
が在籍する全ての学校において実施さ  
れるもの



～特別支援教育の推進について 平成19年4月1日～

## 特別支援教育

「特別な配慮が必要だから  
特別支援学級の方がよいのでは？」  
「この子の支援は通級の先生にお任せしましょう」  
ではなく…



- \* 通常の学級においても当たり前になされる。
- \* 子どもたちにとって必要なことを考える。
- \* みんなで考えみんなで取り組む意識。

R6 特別支援教育コーディネーター研修会事後アンケートより

校内に「インクルーシブ教育システムの理念」を  
周知するにあたり必要なことはどんなことでしょうか

- \* 情報共有の強化 35%
- \* 教職員の理解と意識改革 30%
- \* コミュニケーションの促進 20%
- \* 人員とリソースの確保 15%



## 校内での情報共有

R6 特別支援教育コーディネーター研修会事後アンケートより

雑談レベルでOK  
普段から情報共有を  
する



全体で  
情報共有しながら、  
合理的配慮について  
考える機会をもつ



日頃から、  
通常の学級・  
特別支援学級  
隔たりなく話す



情報共有で、  
特別支援教育が難しい  
ことではないことを  
感じられるようにする



R6 特別支援教育コーディネーター研修会事後アンケートより

## 校内での情報共有

- ・ ちょっとしたことでも情報共有
- ・ 一人で抱えず、学校全体で取り組む意識
- ・ 必要に応じて合理的配慮の提供



これらのことは、

子どもの将来につながります！！

## 合理的配慮について

### 愛知県の公立高校入試では

- ・ 最前列の座席を指定
- ・ 別室、個室での受検
- ・ 検査時間の延長
- ・ 問題や解答用紙の拡大
- ・ パソコン、タブレット端末の使用
- ・ 注意事項等の文書による伝達
- ・ 面接方法を集団から個別へ変更
- ・ 問題文等へのルビ振り
- ・ 問題文の代読
- ・ 代筆回答



愛知県HP <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kotogakko/000027366.html> より抜粋

### 合理的配慮について

「特別扱い」ではなく、「必要な配慮」であるという視点で、全教職員が共通理解をして合理的配慮の提供を進めていくことが重要。



子どもの将来へと支援をつないでいく大切なツールである個別の教育支援計画にも記入を。

\*作成方法については「支援の手引き（名古屋市教育委員会令和2年3月）」を参照。



### 考えてみましょう

生活面・学習面で困難を抱えている子に対して、

どのような指導・支援があれば

- ・ 授業内容が分かり
- ・ 学習活動に参加している実感・達成感をもちながら
- ・ 充実した時間を過ごしつつ
- ・ 生きる力を身に付けているかどうか

を目指すことができるでしょうか。



名古屋市教育センター 研修動画  
特別支援教育コーディネーター研修会より

「特別じゃない！

特別支援教育」

を合言葉に



**教育センター NAGOYA R6-O**

研修動画を活用して「特別じゃない！特別支援教育」について校内のみなさんと一緒に考えてみませんか？

特別支援教育コーディネーター研修会の学びをもとに動画を作りました！

## 研修動画 「特別じゃない！特別支援教育」を合言葉に

どのような内容なの？

- 8月に実施した「特別支援教育コーディネーター研修会」の協議や研修アンケートを踏まえた内容です。
- インクルーシブ教育システムの観点から「特別じゃない！特別支援教育」について考えるきっかけになる内容です。

どこにあるの？

- 全国教員研修プラットフォーム「Plant」にあります。
- 研修検索に、「まなべる 研修動画」と入力し検索してください。  
※ 研修コードは「manaberu」です。

オススメの視聴方法はあるの？

- 個人でも視聴できますが、15分程度のプチ現職教育として、みなさんと一緒に視聴することをオススメします。

現職教育用のナレーションがあるから安心！  
「特別じゃない！特別支援教育」について、みんなと一緒に考えるきっかけにできそう！

ナレーション

動画の一部

プチ現職教育なら15分程度、動画のみなら6分程度。これなら手軽に学べるね！

ちょうどよい時間だなあ。是非やってみたいわ。

**教育センター NAGOYA R6-O**

その子の「やる気不足」や「努力不足」ではありません。

## 発達性ディスレクシア

学習障害のひとつのタイプとされ、全体的な発達には遅れないものの**文字の読み書きに限定した困難**があり、そのことによって**学業不振が現れたり、二次的な不適応などが生じたり**します。知的能力の低さや勉強不足が原因ではなく、**脳機能の発達に問題がある**とされています。【参考】国立成育医療研究センターHP

こんな読みの困難さがあります(例)

が●こ●う●へ●  
い●く●と、

「がっこう」を「がこう」と読む。  
一文字ずつ読む。  
(逐次読み)

①「絵画」  
②「空気」

①「がようし」  
②「よぞら」

想像して読む。

こんな書きの困難さがあります(例)

わこ 先生 赤

「ね」→「わ」など、形が似ている文字を書く。

線が突き抜ける。  
線が多い。

「はね」が逆。

★ 音を動作化しながら発音する学習に取り組むようにする。

	動作化 ※清音は手をたく「●」	例
促音	両手でグーを作る「・」	きって ●●● ●●● ●●● ●●●
長音	合わせた手をそのまま下に伸ばす「ー」	ぼうし ●ー● ●ー● ●ー● ●ー●
拗音	2つの手のひらをねじってたく「◎」	おもちゃ ●◎● ●◎● ●◎● ●◎●
拗長音	2つの手のひらをねじってたたき、合わせた手をそのまま下に伸ばす「◎ー」	ちきゅう ●◎ー ●◎ー ●◎ー ●◎ー

【参考】多層指導モデルMIIM

★ ドリルのページをめくると手本を忘れてしまうことがあります。  
★ 手本を細部まで注目できないことがあります。

★ 正しく書けない、読めないことで、学習の内容に集中できないことがあります。

★ 手本をタブレットで撮影し、子どもの手元に置くことで、子どもが確認しながら書けるようにする。(必要に応じて拡大)

★ プレゼンテーションソフトに教材を添付し、手書き以外の入力もできるようにする。デジタル教科書を使ってふりがなを付け、正しく読めるようにする。

令和5・6年度 発達障害のある子どもの理解と支援講座 講師資料より

困ったときは・・・  
教育センターでは、「学校コンサルテーション」を行っています。発達障害を含めた問題を抱える子どもへの支援や保護者への関わり方、支援に向けた校内体制等について、関係する教職員と指導主事と一緒に考えます。詳細は事業案内(p.50)をご覧ください。